

やけど最新治療 乾燥ダメ

ワセリンとガーゼで湿潤

やけどは30分冷水で冷やし、ワセリンとガーゼで覆う。最近、傷やけどの治療法が昔と少し変わってきている。体の表面をきれいに
する形成外科の専門医、昭和大病院の村松英之助教に最新の治療法を話してもらった。

「まず傷について。大痕を作る④成熟期。線維
きな傷を含め、治療は早芽細胞が去る①の4段
く治すことが大事。治り階。早く成熟期まで進め
が遅くなるほど傷痕が汚ることが一番大事で、き
くなる」と村松助教。れいな傷痕になるとい
傷が治る過程は①出血 ②
期。凝固が始まり止血③ ④昔は赤チンを塗って

炎症期。白血球がばい菌 乾燥させ、ばい菌の感染
を殺し、線維芽細胞を呼 を防ぐことに重点が置か
ぶ③合成・増殖期。線維 されたが、現在は乾燥させ
芽細胞がコラーゲンなど ないことが基本。湿潤環
を使って傷をふさぎ、傷 境下で4段階の治療過程



昭和大病院形成外科の
村松英之助教

重症では培養表皮も

村松助教(昭和大病院形成外科)「昔と全然違う」

を促進させる方がいいこ
とが分かってきた」

傷治療の基本は、白色
ワセリンと非固着性ガー
ゼ(ガーゼにフィルムが
はってあり、皮膚にくっ
つかない。市販品は「メ
ロリン」など)の二つ。
ガーゼにワセリンを塗っ
て傷に貼り、包帯を巻く。
擦り傷なら、市販品の「キ
ズパワーパッド」などが
効果的という。

「やけどの場合、熱に
よるダメージの深さ(深
度)と範囲の広さで重症
度が大きく変わる」

やけどは3種類に分か
れる。1度は赤いだけ。
2度は水ぶくれ。3度は
皮膚が全部焼けただけ。
小範囲の2度なら「軽い
やけど」とされる。

治療はまず、すぐに水
道水で冷やすこと。重症
では全身状態に大きな影
響が出るので病院で専門

傷痕や やけど痕のセルフケア	
遮光	日焼け止め
保護	「マイクロポア」など
保湿	「アットノン」 「バイオイル」など

的な治療が必要になる。
「軽いやけどの治療の
場合、熱を放っておくと
ダメージが広がるので、
出っ放しの水道水で20
〜30分間冷やす。気持ち
よく痛みが楽になる。そ
の後、傷治療と同じくワ
セリンとガーゼで覆う」
村松助教は「自分です
るセルフケアとしては、
遮光、保護(刺激を与え
ない)、保湿の三つが大
事。日焼け止めや傷痕保
護に貼るテープ(市販品
「自家培養表皮は、患
者自身の正常な皮膚組織
から取り出した皮膚細胞
を培養して殖やし、シー
ト状にしたもの。しかし、
培養は表皮シートができ
るまで3週間かかる」
医療の補助手段とし
て、特殊なメーク法で皮
膚病変などを補修する
者が多かった。最近集
中治療室を利用した全身
という方法もあるという。

管理技術が向上し、生命
維持ができるようになった。
自家培養表皮移植が
可能になり、多くの命が
救えるようになった。
「昔と全然違う。生存
率のアップだけでなく、
治療後の痛みやかゆみ、
見た目の汚さ、ひきつれ
で腕が動かない」などが
なくなってきた」
傷痕ややけど痕につい
て、形成外科での治療は、
薬剤のほか、手術やレー
ザー治療などがある。